（別紙様式4）

令和6年10月1日

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
オホーツク社会福祉専門学校	平成10年3月24日	桟　邦雄	〒　090-0817 （住所）北見市常盤町3丁目14 （電話）0157-24-1560
設置者名	**設立認可年月日**	**代表者名**	**所在地**
学校法人栗原学園	昭和44年3月31日	柏尾　典秀	〒　090-0817 （住所）北見市常盤町3丁目14 （電話）0157-24-1560

分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度
教育・社会福祉	教育社会福祉専門課程	こども未来学科	－	－	平成26(2014)年度

学科の目的	保育・幼児教育者として子ども達の成長に合わせた幅広い対応ができるよう、専門的能力を身に付ける。市などが関連する子ども達との行事や活動に積極的に参加し、多くの経験から成長するとともに、保育資格だけではなく、高齢者・障がい者との接し方や、環境を意識した授業を導入し、即戦力となる学生の育成を目的としている。
学科の特徴（取得可能な資格、中退率　等）	保育士・幼稚園免許2種・社会福祉主事任用資格

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 1,710 単位時間	435 単位時間	1,005 単位時間	240 単位時間	0 単位時間	30 単位時間
		104 単位	29 単位	68 単位	6 単位	0 単位	1 単位

生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)
80 人	53 人	0 人	0 %

就職等の状況

■卒業者数 (C)	: 34	人
■就職希望者数 (D)	: 34	人
■就職者数 (E)	: 34	人
■地元就職者数 (F)	31	人
■就職率 (E/D)	100	%
■就職者に占める地元就職者の割合 (F/E)	91	%
■卒業者に占める就職者の割合 (E/C)	100	%
■進学者数	0	人

■その他

特になし

（令和　　5 年度卒業者に関する令和６年５月１日時点の情報）

■主な就職先、業界等

（令和5年度卒業生）

認定こども園　保育所　幼稚園　障害者支援施設　放課後等デイサービス

第三者による学校評価

■民間の評価機関等から第三者評価：　無

※有の場合、例えば以下について任意記載

評価団体：　　受審年月：　　評価結果を掲載したホームページＵＲＬ

当該学科のホームページURL

http://kurihara.ac.jp

企業等と連携した実習等の実施状況（Ａ、Ｂいずれかに記入）

（Ａ：単位時間による算定）

総授業時数	240 単位時間
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	240 単位時間
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間
うち必修授業時数	240 単位時間
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	240 単位時間
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間
（うち企業等と連携したインターンシップの授業時数）	0 単位時間

（Ｂ：単位数による算定）

総授業時数	単位
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位
うち企業等と連携した演習の授業時数	単位
うち必修授業時数	単位
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位
（うち企業等と連携したインターンシップの授業時数）	単位

教員の属性（専任教員について記入）

① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	（専修学校設置基準第41条第1項第1号）	1 人
② 学士の学位を有する者等	（専修学校設置基準第41条第1項第2号）	2 人
③ 高等学校教諭等経験者	（専修学校設置基準第41条第1項第3号）	0 人
④ 修士の学位又は専門職学位	（専修学校設置基準第41条第1項第4号）	0 人
⑤ その他	（専修学校設置基準第41条第1項第5号）	2 人
計		5 人

上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね５年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定）の数	0 人

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

「地育地活」地元で育ち活躍する人材の育成を掲げ、深い愛情をもって人と接し仕事に臨むための知識や技術を身に付け、強い精神力を備え、自ら進んで誠心誠意汗をかきながら行動できる人材をめざし、そのためには企業との連携を密に、学校と企業との役割分担を明確にし、実習、講演などで新たに必要となる知識技術技能等を十分に把握し、分析し、今後の授業科目の開設や授業方法の改善・工夫を行う。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会の討議事項を受け、各学科にて検討したものを学園学科長会議にて討議し、最終的に学園経営会議にて討議し、より実践的な教育課程の編成を行う。

（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年10月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
桟　　邦雄	学校法人栗原学園学園長　理事　オホーツク社会福祉専門学校校長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日（2年）	ー
畠山　友子	オホーツク社会福祉専門学校　介護福祉科学科長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日（2年）	ー
斉藤　茜	オホーツク社会福祉専門学校　こども未来学科　学科長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日（2年）	ー
田村　智美	オホーツク社会福祉専門学校　歯科衛生士科学科長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日（2年）	ー
松浦　信一	医療法人社団松浦歯科医院　理事長　北見摂食嚥下ケア研究会　会長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日（2年）	①
中野　武房	学校カウンセリング研究会会長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日（2年）	②
高橋　正明	社会福祉法人恵和会介護老人保健施設アメニティ美幌　副施設長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日（2年）	③
岡田　直美	学校法人北見明和学園　北見くるみ幼稚園園長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日（2年）	①

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。）
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

（年間の開催数及び開催時期）
年2回 （6月、2月）

（開催日時（実績））
第1回　令和6年6月27日　18：00～19：00
第2回　令和7年2月
0

（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

今後も学生のメンタルケア等変わらないフォローが必要である。また、教員も学生とともに成長をしていくことが必要である。学生の「困り感」に気づき、相手の気持ちに配慮しながら、相手の目線に立って指導していくことが大切ではないか。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
保育施設実習はその修得した教科全体の知識、技能を基盤とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うため、児童に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟させることを目的とする。

（2）実習・演習等における企業等との連携内容
※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
指導案の作成では、実習受け入れ側担当者、教員、学生が十分なコミュニケーションや相談を通じて充実したものになるよう作成。また、造形授業で制作した椅子等子ども達の教育に役立つものについての寄贈等を行うことで、日頃より多くの交流を持つことにより学習を深めている。

（3）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科　目　名	科　目　概　要	連　携　企　業　等
保育実習Ⅰ	①保育全般に参加し、保育技術を習得する。 ②子どもの個人差について理解し、対応方法を理解する。特に発達の遅れや生活環境に伴う子どものニーズを把握し、その対応について学ぶ。	北見市立保育園　北見くるみ幼稚園　北光学園　やよい苑　（認定こども園　児童養護施設　障害者支援施設等）
保育実習Ⅱ	①保育実習Ⅰを踏まえ、より深く保育園について理解する。 ②実践を通して、保育士としての職務を理解する。 ③子ども理解を充実させ、実践力を身に付ける。 ④子どもの家族とのコミュニケーションの方法を具体的に習得する。 ⑤地域社会に対する理解を深め、連携の方法について具体的に学ぶ。	認定こども園めぐみ　認定こども園ほっこう　光西認定こども園　認定こども園緑ヶ丘遊子　（認定こども園　認可保育所等）
保育実習Ⅲ	①保育実習Ⅰを踏まえ、養護・療育を理解し、技術・知識を身に付ける。②援助計画等を立案し、実践する。 ③児童福祉施設等の保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて即戦力となる実践力を身に付ける。	ひまわり学園　コスミック　緑ヶ丘遊子児童館　青空みらい（放課後等デイサービス　障害児施設　児童厚生施設等）
#REF!	#REF!	#REF!

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係
（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記
（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 教員に必要な専攻分野における実務に関する知識、技術、技能を習得・向上するための研修を企業等との連携のもと、定期的に組織的な研修の機会を設ける。研修に当たっては、職務の一環として参加している。
（2）研修等の実績 ①専攻分野における実務に関する研修等
研修名： 実習指導認定講習　連携企業等： 保育士養成協議会 期間： ２日間　対象： 保育士養成教職員 内容 実習指導に関わる教員研修
研修名： 北見地区医療的ケア児等支援者研修会　連携企業等： ささえ一る美幌 期間： 2時間　対象： 専門職 内容 医療的ケア児の支援の方法と遊びについて
研修名： 0　連携企業等： 0 期間： 0　対象： 0 内容 0
②指導力の修得・向上のための研修等
研修名： 保育士養成協議会北海道ブロック研修　連携企業等： 保育士養成協議会 期間： 4時間　対象： 保育士養成教職員 内容 保育士養成に関わる研修
研修名： 学校法人栗原学園職員研修会　連携企業等： 株式会社三和システムサービス 期間： 3時間　対象： 栗原学園教職員 内容 DX化を成功させるために必要なこと
研修名： 0　連携企業等： 0 期間： 0　対象： 0 内容 0

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	保育士養成協議会北海道ブロック研修	連携企業等:	保育士養成協議会
期間:	1日間	対象:	保育士養成教職員
内容	保育士養成に関わる研修		
研修名:	0	連携企業等:	0
期間:	0	対象:	0
内容	0		
研修名:	0	連携企業等:	0
期間:	0	対象:	0
内容	0		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	学校法人栗原学園職員研修会	連携企業等:	未定
期間:	3時間	対象:	栗原学園教職員
内容	教職員の指導力向上に関わる研修		
研修名:	0	連携企業等:	0
期間:	0	対象:	0
内容	0		
研修名:	0	連携企業等:	0
期間:	0	対象:	0
内容	0		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

本校の教育活動及び学校の運営の状況について、自己評価結果に基づき学校関係者評価を行い、学校運営の改善並びに教育水準の向上に資するための対策を講じる。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)教育理念・目標
(2)学校運営	(2)学校運営
(3)教育活動	(3)教育活動
(4)学修成果	(4)学修成果
(5)学生支援	(5)学生支援
(6)教育環境	(6)教育環境
(7)学生の受入れ募集	(7)学生の受入れ募集
(8)財務	(8)財務
(9)法令等の遵守	(9)法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	(10)社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

幼保一元化に伴い学生のより一層の質的向上が求められる中、教授する側に保育現場で起こっている問題については可能な限りの情報収集を支障の出ない範囲で協力頂いている。問題解決を学生が学べることで今後の保育人材不足解消にもつながるのではないか。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名　前	所　　属	任期	種別
中野武房	学校カウンセリング研究会会長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	有識者
松浦信一	医療法人社団松浦歯科医院理事長　北見摂食嚥下ケア研究会会長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	有識者 実習施設
高 橋 正 明	社会福祉法人恵和福祉会 介護老人保健施設 緑風 顧問	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	実習施設
岡 田 直 美	学校法人北見明和学園 認定こども園 北見くるみ幼稚園 園長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	実習施設
近藤　千鶴	㈱ベストミント代表取締役社長　学)栗原学園 同窓生	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	同窓生 企業役員
小野寺　栄利子	オホーツク社会福祉専門学校　父母協力会	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	PTA

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・ 広報誌等の刊行物 ・ その他(　　))

URL:　http://kurihara.ac.jp

公表時期:　令和5年10月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に沿って、学校案内・募集要項等の印刷物、ホームページ、学園広報紙「Net　Work」を発行し情報提供を行っている。毎年、学校関係者評価委員会で確認後、10月1日に公表。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	・学校案内　交通アクセス、
(2)各学科等の教育	・学科案内
(3)教職員	・事業報告書(抜粋)
(4)キャリア教育・実践的職業教育	・就職・進学案内　就職サポート、就職先一覧
(5)様々な教育活動・教育環境	・事業報告書(抜粋)
(6)学生の生活支援	・入学案内　各種サポート制度
(7)学生納付金・修学支援	・入学案内　学費・納入方法、学費分割納入制度
(8)学校の財務	・財務計算に関する書類
(9)学校評価	・自己点検評価報告書
(10)国際連携の状況	・なし
(11)その他	・なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法
(ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他(　　))
URL:　http://kurihara.ac.jp
公表時期:　令和5年10月1日

授業科目等の概要

	#REF!																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1		○		造形表現	幼児期における造形教育の果たす役割と必要性について学ぶ。また、幼児の用いやすい多くの素材や用具をもとに、製作の意図、目標、展開、反省等のあり方を理解し、幼児の創作活動の実際を学び、造形表現指導のあり方を習得する。	1	30	4		○		○			○	○
2		○		造形表現Ⅱ	製作実習を通して自らが造形表現の楽しさを十分感じ取り、指導者として求められている子どもの造形教育の基礎的な知識及び技能を習得し、実践的指導力を身につける。	1	60	4		○		○			○	○
3		○		音楽表現	音楽用語の理解・ピアノの基礎を中心とし、実習・就職に向けピアノの技術向上を目指す。	1	60	4		○		○		○		○
4		○		音楽表現Ⅱ	教則本のみではなく、童謡などの弾き歌いなどを取り入れ、現場で活用できる応用力を身に付ける。	1	45	3		○		○		○		○
5	○			保育実習指導Ⅰ	実習生としての取組み方や姿勢、また、保育実習の意義・日誌の書き方を学ぶ。実習を終え実習先の指導を基に改善点等を明確にし、保育士の役割・記録・職業倫理などを理解する。	1	45	3		○		○		○		○
6	○			保育実習Ⅰ	保育・施設現場での実習を通して、保育所保育士・施設保育士の役割や業務内容を理解し、実践を通して学ぶ。	2	160	4			○		○	○		○
7																
8																
9																
10																
11																

12																
13																
14																
15																
16																
17																
18																
19																
20																
21																
22																
23																
24																
25																
26																
27																

28																
29																
30																
31																
32																
33																
34																
35																
36																
37																
38																
39																
40																
41																
42																
43																

44																
45																
46																
47																
48																
49																
50																
51																
52																
53																
54																
55																
56																
57																
58																
59													○	○		

60																	
合計					○○　科目							○○ 単位（単位時間）					

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件：○○○○	１学年の学期区分	○ 期
履修方法：○○○○	１学期の授業期間	○ 週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。